

# ごかんしょうとしよだよ だいごう 後閑小 図書便り 第5号



令和元年12月20日

12月13日(金)に図書委員会による「第4回ビブリオバトル本選大会」が行われました。予選大会を勝ち抜いた4年生2人と、3年生1名、計3名のバトルーでのチャンプ本をめぐる大戦となりました。投票の結果、4年生の新井彩心さんが紹介してくれた『よい子への道』がみごとチャンプ本にかがやきました。(「城山だより」にも記載されていますので、そちらもごらんください)

ビブリオバトルも4回目となり、バトルーの紹介の仕方や、本の紹介の仕方などに、子どもたちの工夫が見られました。また、「3年生になったら参加したい」という低学年の声も聞かれました。図書委員会恒例のイベントとして定着し、上級生の堂々と語る姿が下級生への良い刺激になったのだと思います。終了後、上毛新聞社の記者の方から、6年生の代表にインタビューがありました。1つ1つの質問にきちんと答える姿から、平日頃、読書に親しんでいる様子が伝わってきました。これを機に、読書の楽しみをますます広げてもらえたらと思います。

ビブリオバトルは、「人を通して本を知る、本を通して人を知る」がキャッチフレーズの心の交流を図ることができるコミュニケーションゲームです。また、好きな本を通して自己表現するビブリオバトルは、自己表現能力を磨くための活動の一つでもあります。「語ることによる自己表現能力」は、大切なスキルです。それは、面接や会議の場などで必要となるだけでなく、日々の生活の中で問われる力であると思います。例えば、「いじめを受けたとき、言葉で理路整然と立ち向かうことができる」、「心の行き違いがあったとき、相手の気持ちを思いやりながら言葉を選んで自分の考えを伝える」、「相談を受けたとき、適切な言葉でアドバイスをし、励ましの言葉をかける」など、生きているかぎり様々な場面でものを言う力であると思います。「語ることによる自己表現能力」は、「生きる力」であると同時に、「他者を生かす力」にもなるのです。

ビブリオバトルは、3人の仲間と1冊の本、タイマーがあればいつでもどこでもできるゲームです。友だちの意外な一面を見つけ、新しいジャンルの本と出会いながら、「ぴったりの言葉を探し当てながら語る力」を磨いてもらえたらうれしいです。



11月28日(木) 図書の時間に、図書室で行われた4年生による予選大会の様子



12月13日(金) 視聴覚室で行われた本選大会の様子



きぞうぼん しょうかい  
寄贈本の紹介



『旅立ち』 (のうせいまひによるしょうがいをもったまつだあすさがにちじょうのこのころの動きをつづったししゅう)

まつだ あすさ (さく)  
松田 梓 (作)



しんちゃくとしよ しょうかい  
新着図書を紹介



えほん  
＜絵本＞

『うんちっち』

ステファニー・ブレイク (さく)

ふしみみさを (やく)

＜ものがたり・よみもの＞

『リルリルフェアリル トウインクル ～スピカと冬の夜のきせき～ 』

なかせりか (さく)  
中瀬里香 (作)

『ハックルベリーフィンの冒険 上 』

マーク・トウェン (さく)

にしだ みのる (やく)  
西田 実 (訳)

『ハックルベリーフィンの冒険 下 』

『三国志』 4巻、5巻、30巻～60巻

よこやまみつてる (さく)  
横山光輝 (作)

\* 後閑小学校ホームページで、カラーの図書便りをご覧になれます。

\* 図書館アルバムは、冬休み明けに更新する予定です。ビブリオバトルの様子などをお伝えします。

としよししよ あわじ  
図書司書 淡路